

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200420		
法人名	医療法人 誠和会		
事業所名	グループホーム コージー ユニット共有		
所在地	岡山県倉敷市中島848-6		
自己評価作成日	平成31年2月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成31年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、洗濯たたみや食後の片付けなど職員と一緒にしながら役割を持ち家庭的な雰囲気の中でゆっくり生活を送っている。入居者1人1人の思いや希望、要望を大切に、実現できるように外出や買い物、お菓子作りなど個別ケアに取り組んでいる。また、季節に合わせて、お花見、夏祭り、餅つきなど行事を計画し、家族や地域の方にも参加してもらい共に楽しんでいる。家族の来訪時には、日々の生活の様子や毎月の状態を細目に報告することで、信頼関係を築いている。高齢化、重度化が進んでいく中で、家族と共に生活を支えられるように心がけ、日々の状態観察をし、医師や看護師等他職種と情報の共有を行い医療との連携も出来るように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回訪問した時に、自分の人生の集大成として、これまで創作してきた詩画の編集作業に取り組んでいたAさんは、今日の訪問でもその活動的な姿はお変わりなく、完成した画集をいつも手元に置いて推敲を重ねている。山陽新聞の倉敷地域版にも出版の記事が掲載されたと聞いた。家庭的な雰囲気を大切に「第二の我が家」を目指し、利用者の能力を生かしたケアに努め、本人の希望や要望を実現してもらい取り組みをしている「コージー」だからこそ、このような嬉しい出来事がたくさんあるのだろう。もちろん、その陰には家族の協力と職員の温かい見守りと惜しみないサポートがあったからこそだとおもうが…。Aさんに限らず、このホームの利用者は家族が協力的な人が多く、良好な関係が築けている。平成31年10月で10周年を迎える「グループホームコージー」が若い職員達のパワーを集めて今後大きく羽ばたくことを期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誠和会の理念、コージの目標を心がけ、家族と協力しながら、暮らしやすい、第二の我が家と思ってもらえるように取り組んでいる。	法人の理念の他に、GHの目標「家庭的な雰囲気の中で楽しみ安心感のある生活」「尊厳ある生活・能力を生かしたケア」「社会生活とのつながりを大切に」等の3項目を掲げて、利用者に感動のある生活してもらおうと職員が一丸となって取り組んでいる。	自己評価内容55項目に沿って職員と話し合い、日々の取り組みについて振り返り、検証し、運営推進会議でも報告している記録を見た。理念が日々のケアに生かされ、実践される事を今後も期待している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の川掃除に職員が参加している。また法人内で行われるお祭りへ参加したり、小学校の運動会の応援、高校の行事への招待、ボランティアで踊りを披露してもらったりと地域の方との交流を図っている。	町内とのお付き合いや小学校の校庭で行われる「とんど焼き」等の地域の行事にも積極的に参加して交流をしており、地域との良い関係が築けている。子供達との交流も毎年恒例になっており利用者にとっても楽しいひと時になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校や専門学校の学生の実習を受け入れ、同法人が受け入れた実習生に見学や説明をしている。また、中学生の職場体験を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、家族や地域、他事業所の方からの意見をチーム会や管理者から報告、検討しサービスの向上に努めている。	年6回、隣接する小規模多機能ホームと合同で開催する会議には、行政・地域・家族等多彩なメンバーが参加して、毎回運営に関する有意義な討議がなされている。「防災について」「医療との連携について」等、テーマを決めて話し合い、意見交換をしている。	運営推進会議には他のGHの参加があり、コージの職員も他ホームの会議に参加して、立地条件や地域性は異なるものの様々な視点で学ぶ機会がある。地域密着型という性質を考えると、地域の人の参加(町内会長・民生委員・愛育委員等)がもっとあると良い。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ介護保険課や地域包括支援センターから参加があり、活動報告をしている。必要時、相談し協力を得ている。	2ヶ月毎に開催している運営推進会議に市の職員・地域包括職員が来てくれるので、その都度情報交換や相談等をしており、よい連携が取れている。6月には実地指導があり、書類上のアドバイスや指導をいただいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制・虐待委員会で、マニュアルやケア方法の見直しをしている。アンケートを実施し勉強会を開催する事でケア方法の見直しを行っている。また、居室環境についても随時見直しをしている。	身体拘束に該当する人はいないが、外に出たいというサインをキャッチした場合、素早くその人に寄り添うように心がけており、玄関の施錠はしていないので安全対策の為にチャイムを設置している。離設マニュアルもあり隣接する小規模や法人施設と連携を取りながら対応する体制が整っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制・虐待委員会が勉強会を開催し、職員に周知徹底している。また、内部外部の研修会に参加し知識の向上に努めている。アンケートを実施しており、ケアについて振り返る機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者1名。勉強の機会が少ないため、研修へ参加する機会を設けることや包括支援センターなどへ問い合わせをし対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、契約書、重要事項説明書で説明を行っている。また、契約書・重要事項の変更や入居後意見などがあれば、説明を行い理解を得たうえで承認を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見を活動に取り入れるように心がけている。家族の来訪時には、近況報告をしている。毎月、生活の様子便りを送付し、心身の状況をアセスメントし家族に報告して意見交換を行っている。	写真満載の毎月のお便りで近況報告や行事の内容等を家族に伝えているので、日々の生活の様子がよく分かる。面会時だけでなく必要に応じて家族とは密に連絡を取り合い、意見や要望を聞いて運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と意見交換を行うため、月に1回チームミーティングを開いている。ミーティングに参加出来ない職員に関しては、事前に意見を聞くようにしている。随時、ミーティングを開催し意見や提案を取り入れられるようにしている。	管理者と各ユニットリーダーが中心となり、参加出来ない場合は事前に意見の記入用紙を提出する等、職員全員参加型のミーティングを開催している。各種委員会もあり、それぞれの担当者の意見や提案を参考に職員間で運営に関する議題を協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談や随時個別面談を行い、目標や現状について話をする機会を設けている。また、勤務時間や希望休等出来る限り要望を聞き勤務調整を行い、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には、担当の職員がつき教育を行い安心して働けるように環境を整えている。また、法人内外の研修に参加し知識を深められるように取り組んでいる。法人内でも発表や勉強会を開催している。法人内外の研修へ参加する機会を設け、職員一人一人のケア技術の向上に努めている。ホーム内でも勉強会を開催している。外部研修に参加し参考になったことはホームで取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、他施設と情報交換を行っていけるように努めている。良い意見は、資料や委員会で報告し職員へ伝達、現場で生かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段より、密にコミュニケーションを図り、心配や不安に感じていることを汲み取り対応する事で不安の軽減に努めている。1対1で寄り添ったケアを行う事で信頼をえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族の要望、思いを聞いている。入居後、随時現状報告を行い、ご家族の気持ちに寄り添える機会を作り安心して過ごせるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人や家族から困っていること、サービスを受けている事業所からも情報を聞き、状況を確認し職員間で話し合い検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の片付けや洗濯たたみ、縫い物、畑での野菜作り等を職員と一緒にいき、共に支え合いながら生活を送っている。高齢化、重度化が進む中で、入居者の尊厳を大切に出来るようケアを行い、穏やかな雰囲気の中で楽しみ、安心感のある生活を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には、必ず生活の様子を報告して意向確認を行なっている。入居者と家族の方がゆっくり過ごせるように環境を作っている。また、月に1回行事を行っており、家族にも参加してもらえる機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方と外食や御法要にも参加できるように連絡、調整を行っている。また、知人の来荘時には、リビングや居室で過ごせるようにしている。	法人の有料老人ホームにいる俳句の仲間と毎月お互いに行き来して旧交を温めている人もいれば、すぐ近くにある老健に入所している夫に会いに行く人もいます。家族の面会や協力もあり、馴染みの場所へ出かける事を日常的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日体操や歌を唄ったり、レクリエーションなどを実施し、活動を通じて他者と交流を図る時間を設けており、コミュニケーションが図りにくい方には、職員が間に入るなど対応をしている。居室で過ごすことの多い入居者の方へは、細目にコミュニケーションを図り、アロマを取り入れ環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した方のご家族に、運営推進会議や行事に参加していただき意見交換を行っている。また、連携を取りながら必要に応じ、情報収集、情報交換をしている。法人内の施設へ退去した方の所へ会いに行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から入居者の思いや希望をくみ取り、外出や買い物など1つでも実現できるよう取り組んでいる。思いを伝えることが難しい方には、個別に話をしたり家族に、どのようなことを好まれていたか確認をしている。	前回訪問時は制作中だったAさんの画集が、立派な画集として完成し大切に手元に置かれていた。何度も推敲した跡も見られ、長年の想いを遂げた満足感と達成感が感じ取れた。一人ひとりの思いや希望をしっかりと聞き取り、日々のケアやケアプランにつなげようと努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、家族へフェイスシートに生活歴を記入してもらい、把握している。また、入居後も会話の中から情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様子や状態に変化があれば、カルテや月1回のモニタリングシートに記載し総合的に把握できるようにしている。また、申し送りやチーム会で一人一人の様子を話し合い情報の共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族にもカンファレンスに参加してもらい、家族の意見も反映させ、本人の希望や状態を把握し医師や看護師、リハビリと連携をし意見を求め作成している、	一人ひとりの心身の情報シートを作成して、本人・家族の意向を基にしながら、身体面だけでなく精神面についても担当者会議で協議して、ケアプランを作成している。そして日々のケアへのモニタリングをして定期的に評価し、次回へのプランにつなげている。	長谷川式スケールやNM式スケールを活用して、個々の状態把握をしているが、例えば、塗り絵や習字等の創作活動が変化していく過程を見ても、認知症の進行度合いを測る一つのツールになるだろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やモニタリングシート、毎月の様子に評価を記入し、カンファレンスにて検討している。また、プランの評価、新しい評価ができた時には、スタッフ全員で確認し把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、本人や家族の要望を確認し、一人一人の状態に応じたケアをおこなっている。法人内の他職種と連携を図り、その方に合った支援ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の行事や地域での行事に参加している。買い物に出掛けたり、公園に散歩、ドライブに行くなど外出して気分転換を図っている。また、託児所の子供達とふれあう時間を作っている。孫、ひ孫が来てくれたと喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や以前からのかかりつけ医、訪問診察や訪問看護など連携を密にし、状態把握に努めている。状況の変化があれば随時報告している。	倉敷記念病院へ外来通院8名、他病院1名、定期的な訪問診療利用9名と受診の形は異なるが、各主治医と情報の共有をし健康管理に努めている。倉敷記念病院や訪看ステーションと24時間体制で連携し、体調不良時には早めに報告、受診に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル測定や本人の表情を観察する事で、異常の早期発見に努めている。異常時には、訪問看護に報告、相談しアドバイスのもと対応している。週1回の訪問日には看護記録にて情報交換し、職員全員が状態の把握が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は随時面会に行き、本人が安心して治療を受けられるように支援している。早期退院できるように医療関係者と情報交換や相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な管理が必要となった場合、家族・医師と相談し状態に応じた施設サービスが受けられるように援助している。入居相談時や入居後も随時、家族に医療の意向説明、確認を行っている。本人と家族の方からの希望を聞き看取りを行っている。	皆の輪の中で過ごす事が好きだった100歳のBさん、医師からも「ここで最期を」と言われていたCさんの看取りを行なった。皆の声を聴きながら安らかに逝った人、泊まり込んでいた家族に看取られ看護師の孫が訪問看護師と一緒にエンゼルケアをしてくれた人、それぞれその人らしい最期だったと聞いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、マニュアルをもとに勉強会開催し、デモンストレーションを実施している。その都度、見直し、確認をしている。法人の勉強会にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練実施し、法人内の各施設より駆けつけ訓練を行い、火災時など協力体制がとれている。また、他部署から評価をしてもらい意見を参考にしている。災害時のマニュアルがあり周知徹底している。また、水害時には隣接している特養と協力し避難を行う。	ホームの周辺には法人の施設が点在しているので、災害時に関わらず、日頃から連携や協力体制が出来ており、合同で定期的に避難訓練もしている。その他にも地震発生時の家具やテレビ等の転倒防止として様々な対策をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にケア方法の見直しや勉強会、抑制廃止虐待防止委員会などで話し合いケア方法を見直している。また、その都度チーム会でも見直している。	入浴・排泄等の介助時への羞恥心やプライバシーへの配慮には特に気をつけており、トイレへの声かけは耳元でそっと話しかける等、一人ひとりを尊重している。訪室時のドアの開閉にもプライバシーを損ねないように気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から本人の思いや希望がないか注意しながらコミュニケーションを図っていき、上手く思いが伝えられない方には、個別に会話をする機会を設け、伝えやすい雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールは決めているが、本人の意思を大切に、入眠、起床、食事、入浴時間等、それぞれ本人のペースや体調に合わせ希望や要望に沿うような対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師に来てもらい、カット実施している。同じ美容師が来てくれるため、顔なじみとなっている。身だしなみを整える事が難しい方には、本人の意見を聞きながら介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いやランチョマット、タッパー拭き等の家事活動を入居者と一緒に行っている。毎月、旬の食材を使った行事食や近隣の飲食店へ外食に行けるよう計画している。	毎日の食事は法人施設から届くが、メニューに関する利用者の希望を聞き1ヶ月に1回開催される委員会で栄養士に伝えている。行事食は皆の毎月の楽しみになっており「お寿司が毎日だったらいいのに」「茶碗蒸しもあるね」等の利用者の声も聞こえてくる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの良い食事のメニューを作っている。食事、水分量をチェックし把握している。水分が少ない時には、こまめに声かけ、ジュースにて水分提供している。食事が少ない時は、本人が好きで高カロリー・栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。磨き残しが無いよう確認している。義歯は、洗浄剤を使い清潔が保てるようにしている。希望がある入居者は、受診や往診をしケアを行っている。往診時には、その方にあった口腔ケアについて相談、指導をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンを把握しパットや誘導時間の工夫をし、失禁が少なくなるように取り組んでいる。	可能な限り布パンツとパットで対応しており、重度の人でも二人介助でトイレに座って排泄してもらっている。入所時は紙パンツだった人も布パンツとパットに変えて、コスト面の削減にも努め、定時誘導して排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量等の管理、散歩や体操などの活動を取り入れている。ヤクルトやヨーグルトなどの乳製品を活用したり、腹部マッサージやホットパックを行い、下剤をなるべく使わないように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽をまたぐことが難しい方にはリフト浴を使用し、本人の希望と病状に合わせてながら入浴を検討している。入浴拒否がみられる方へは、毎日入浴の声かけを行い、その方のペースに合わせている。	基本は2日に1回入浴としているが、その人の状態によって、浴槽に入る、シャワー浴、清拭、足浴等で対応している。入浴拒否が強い人でも本人の意思を尊重しながら職員で話し合い、対応方法をいろいろ模索しているが、家族に協力してもらう事もあった人が職員だけで入浴してくれるようになったという嬉しい例もあるようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にウッドデッキに出て過ごしたり、ソファにてゆっくり過ごせるようにしている。昼寝をしたい人は、居室やソファで休む時間を設けている。夜寝れない方へは、リビングで話をしたり、温かいお茶を提供している。室内温度、湿度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無いように職員2人でダブルチェックを行っている。くすりの効能、副作用が確認出来るようにカルテに挟んでいる。また、法人内で行われる薬の勉強会に参加している。薬剤師から飲み合わせの指導も受け、注意しながら介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた壁画を作成、飾ることで共に達成感や喜びを感じている。また、好まれているお菓子作りをし、食べることで気分転換を図っている。縫いものが得意な方は、ほつれた衣類直しや袋作りを依頼し快く引き受けてくれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の会話の中から、行きたい所を聞き、お花見や紅葉ドライブ、食事など行事に取り入れている。家族の方に行事へ参加してもらうことで、普段外出することが苦手な方も出掛ける事が出来、楽しんでいる。	年度の行事計画を作り、季節毎に非日常的な楽しみをたくさん作るようにしている。倉敷美観地区へドライブ、総社の国分寺へ、中華園で外食等々、写真や記録からも楽しんでいる様子が伝わってくる。本人の外出希望も多く、家族も協力的で、毎週一緒に外食に出かけている人もいと聞いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方は、自己管理をしており、定期的に本人と一緒に確認を行なっている。ほとんどの方が、管理が難しいため、立て替え金で対応している。買い物や外出時には、本人よりお金を渡してもらい支払を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いが出せるようにしている。電話の希望時には、家族や知人に電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候をみながら、空調管理、温度調節を行い、過ごしやすいよう環境を作り、心がけている。花や植物を置いたり、植え替えをしたり季節を感じてもらえるようにしている。	リビングの共有空間は広く、ウッドデッキにも自由に出られるので、とても開放感を感じる。オープンキッチンからはすべての居室が見渡せ、目が行き届くようになっていて、利用者はテーブルやソファ等、自分の居心地の良い場所で思い思いに好きな事をして過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で会話や活動が楽しめるよう、椅子やテーブル、ソファの配置している。音楽を流したり、アロマを取り入れ環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の使用や、昔作った作品を飾ることで、その時代の話職員へ教えてくれている。花の世話が好きな方は、植物を居室に置き世話をしている。世話が難しい方は、職員と一緒にいる。活動で作った作品を飾ったり、家族の写真を飾っている。	重度化するにつれ居室で過ごすことが多くなってきた人への環境整備にも力を入れており、音楽をかけたり、アロマを焚く等、快適に過ごせるように工夫している。また、これまでの生活スタイルを変えないで本人らしく生活が送れるようにサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は、バリアフリーであり活動のスペースを十分に設け、移動しやすいよう、家具の配置に配慮している。居室では、自立してその人らしい生活が送れるよう、本人、家族の要望を聞いたり、転倒の可能性が高い方には、センサーを設置し住環境を整えることで転倒予防に努めている。		